

会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。会報 78 号をお届けします。これからも理事会の活動にご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。学会のインターネットサイトもご覧ください。
<http://sjdf.org/>

Le Conseil d'administration tient à remercier chacun des membres de la SJDF pour son soutien et sa participation sans faille à ses activités.

Voici la livraison n° 78 du bulletin biannuel de la SJDF que vous pouvez également retrouver sur notre site à l'adresse suivante :
<http://sjdf.org/>

会長あいさつ
Mot du président

○ フランス語教育界の存続のために

日本フランス語教育学会会長・西山教行

日本フランス語教育学会 (SJDF) は 2017 年 9 月に国際フランス語教授連合アジア太平洋地区大会を実施し、およそ 400 名の参加者が京都に結集しました。その概要については小松副会長の報告をご覧いただければ幸いです。

今回のアジア太平洋地区大会は通常の秋季大会を代替する措置であったことから、通常の秋季大会は実施しませんでした。また今年 2018 年の秋季大会についても、日本、韓国、台湾そしてモンゴルの東アジア 4 カ国が結集する大会が台湾で開催されることから、台湾大会が本学会の秋季大会を代替するものとなります。

SJDF ではこのように学会活動の国際的展開を推進していますが、これは SJDF の設立の目標、すなわち「世界のフランス語教育研究者とも連携して新しい語学教育を推進」することに関連するとともに、英語以外の外国語教育がますます苦境に立たされるなかで、国際化こそが SJDF を価値づけ、フランス語教育界の生き残りを可能とする方策ではないかと考えるためです。

「フランス語教育に従事する」とは実に多義的な言説です。教室で学習者にフランス語を教えることはまずその基盤となるものです。教授法を絶えず刷新し、学習者や学習環境への最適化を追求することも重要です。そして教授法の刷新の知見を報告や研究論文によって他のフランス語教師に周知し、その批判を仰ぐこともフランス語教育界を構成する要素です。さらには実践を踏まえて、フランス語教育界、また外国語教育界全体の関心や動向などを展望しながら、言語教育学、フランス学、フランコフォニー研究などへ展開し、国際社会との交流を図ることも、授業を直接にまた具体的に改善し刷新することと並んで無視できない営為です。

これらの活動はいずれも多くの場合、個人の創意工夫に基づくもので、フランス語教育普及に不可欠の要素です。しかし、言語教育・普及にはこのような活動と並んで、これに匹敵する活動があります。それは教育・普及を担う装置の構築と運用です。これはフランス語教育の現場に直結するものではありませんが、教育活動や学術活動を展開するための下部構造であり、フランス語教育界の場合、本学会がその役割を担っています。大会の企画運営、学会誌の編集や刊行、さまざまな活動の支援協賛など、いずれも大きなエネルギーを必要とするものです。とはいえ、現在のようにフランス語教師が勤務先などの業務に忙殺され、研究成果の産出に追われている中で、さらなる時間をとられかねない活動に関与することにためらいがあるかもしれません。

しかしながら、フランス語教育・普及への情熱は普及そのものへの関与からも生まれるのではないのでしょうか。私たちが現在、幸いなことにフランス語を教えるのは、私たちがこれまでにフランス語を外国語としてであれ、母語としてであれ、学ぶ機会を持つことができたためです。フランス語教育という文化資本は前の世代から私たちの世代へと継承され、贈与されてきました。そしてこの文化資本の贈与は教育という構造の中で行われ、その構造がなければ成立しなかったものです。教育界を育てる構造基盤の管理維持は決して容易ではなく、多くの有為の人物の献身を必要とするものですが、フランス語教育・普及への情熱が織りなす無償の営みにより、これまでフランス語教育界は存続し、またこれからも存在し続けることができるでしょう。

この春に SJDF では会長ならびに理事の選挙を行い、改めてこの界の存亡を支えてくださる諸兄諸姉を募ります。フランス語教育の贈与にあずかった有志が次の世代へとこの灯火を消すことなく伝え続けてくださるよう、会員諸兄のご理解とご協力を願い上げる次第です。

Pour que le champ de l'enseignement du français ne périclite pas.
NISHIYAMA Noriyuki (Président de la SJDF)

À la place de l'habituel congrès d'automne de notre société, la SJDF a organisé avec succès en septembre 2017 le congrès régional de la CAP (FIPF) à Kyoto, qui a rassemblé plus de 400 collègues venus du monde entier. Le congrès d'automne en 2018 aura lieu à Taïwan ; ce sera un congrès conjoint organisé par nos homologues taïwanais, coréens et mongols.

Ce développement de la coopération internationale, la SJDF y contribue. C'est même un de ses objectifs depuis sa création. Au moment où l'enseignement des langues autres que l'anglais se trouve en crise, la politique d'internationalisation se veut comme un atout permettant de mettre en valeur le travail de la SJDF et de contribuer à la défense de l'enseignement du français dans sa

diversité au sein du paysage éducatif au Japon.

Travailler pour l'enseignement du français, cet objectif comporte différentes dimensions parfois difficiles à cerner en détail. Tout d'abord, la pratique de l'enseignement du français aux apprenants en classe de langue en constitue bien entendu la dimension fondamentale. Cette pratique devra s'appuyer sur une méthodologie permettant d'adapter l'enseignement en fonction de l'environnement éducatif. Il ne faut pas négliger non plus la diffusion des acquis de la recherche en pédagogie, sous forme d'ateliers ou de comptes rendus à destination des collègues, pour permettre aux pratiques de classe de se renouveler. La didactique des langues, les études françaises ou francophones font également partie du champ de l'enseignement du français au sens large du terme, à côté de la pratique pédagogique, et ce dans la perspective de la coopération internationale.

Le capital culturel que constitue l'enseignement du français au sein du système éducatif nous a été légué par les générations précédentes. Sans lui, rien n'aurait été possible. Il n'est pas facile de le préserver et de le faire fructifier. Tâche parfois ingrate qui s'efforce de sauvegarder le champ de l'enseignement du français jusqu'à aujourd'hui et, nous l'espérons, pour les années à venir aussi.

L'élection du président et des membres du Conseil d'administration de la SJDF marque un moment précieux pour inviter les membres à soutenir et à développer l'enseignement du français dans toutes ses dimensions, afin de pouvoir le transmettre aux générations à venir.

大会のお知らせ

Informations sur le Congrès

■ 国際フランス語教授連合 (FIPF) 第4回アジア太平洋大会 (京都大会) 報告

2017年9月20日からの4日間、京都大学キャンパスはフランス語の熱気に包まれました。日本フランス語教育学会 (以下 SJDF) の主催により、国際フランス語教授連合 (以下 FIPF) 第4回アジア太平洋大会が開催されたのです。世界56か国から約400名が参加し、フランス語教育への情熱や知見を分かち合う機会となりました。

ジャン=マルク・デュファイス FIPF 会長がベルギーから参加したほか、フランス語圏諸国からフランス語教育専門家や作家約10名を招き、講演・アトリエ各約10件、テーブルロンド約30件、個人発表200件以上という充実したプログラムの大会となりました。今大会は「フランス語を通じた言語生態系の保持と言語的多様性」をテーマに掲げ、グローバル化進展のなかでのフランス語教育の課題・展望、他言語との連帯、域内関係者の協力について、さまざまな意見が交わされました。

FIPF 傘下22か国24団体を擁するアジア太平洋地域では、2006年に第1回台北大会が開催された後、2010年シドニー

大会、2013年チェンナイ (インド) 大会が開かれ、域内フランス語関係者の研究・実践上の交流、連帯を深める重要な機会となってきました。第4回の京都大会は過去3回を大幅に上回る規模となり、域外からも多くの参加者がありました。また今回の大会に先立ち、アジア太平洋地域各国のフランス語教育学会代表と各国フランス大使館の言語協力担当官あわせて約50名が一堂に会し、初めての地域フランス語教育戦略会議が開催されたことは、歴史的快挙と言えましょう。域内の現状を確認し、フランス語イメージや教授法の刷新を目指し今後3年間の活動計画を話し合いました。

1996年に東京で開催された FIPF 世界大会から約20年を経て、再び日本でこのような FIPF の大規模な大会を開催することができたことは、日本のフランス語関係者にとって大変喜ばしいことです。この大会は日本学術振興会、アンスティチュ・フランセ、京都府・京都市などの財政支援、西山教行大会実行委員長をはじめ、SJDF 会員のボランティアによる献身的な働きによって実現したことを加えさせていただきます。この場をお借りしてご協力ご尽力くださった皆さまにお礼を申し上げます。

2018年11月には台北にて、台湾・韓国・モンゴル・日本のフランス語教育学会による4か国共催国際大会が予定されており、地域の仲間たちとは1年後の再会を誓って別れたのでした。

(こまつ・さちこ/お茶の水女子大学准教授・SJDF 副会長)

FIPF アジア太平洋委員会幹事長)

◇初出=『ふらんす』2017年12月号

■ 2018 年度春季大会研究発表/実践報告募集 Appel à communications pour le Congrès de printemps 2018

2018年度春季大会は、6月1日(金)・6月2日(土)、慶應義塾大学、三田キャンパス (東京都港区三田2丁目15-45) にて開催されます。メインテーマは「会話、相互作用、コミュニケーションにおける多様性」《Conversation, interaction et diversité communicative en didactique du FLE au Japon》です。

春季大会にむけて研究発表/実践報告を募集しています。メインテーマ以外の発表・報告も受け付けておりますので、奮ってご応募ください (なお、研究発表のセッションは6月2日(土) 午前に予定されています)。研究発表/実践報告(20分) を希望される方は、発表申込書用紙 (http://sjdf.org/doc/formulaire_2018p.docx) に必要事項をご記入の上、事務局(sjdf_bureau@sjdf.org) まで添付書類でお送りください。発表は日仏いずれの言語でも結構ですが、日本語で発表される方もフランス語タイトルを付記してください。

なお、締め切りは2018年3月19日(月) となりますのでご注意ください。

お問い合わせ先: 今中舞衣子 (幹事長)
imanaka@int.osaka-sandai.ac.jp

Le congrès de printemps 2018 de la SJDF aura lieu les 1er et 2 juin sur le campus Mita de l'Université Keio (2-15-45 Mita, Minato-

ku, Tokyo). Sa thématique principale sera : « Conversation, interaction et diversité communicative en didactique du FLE au Japon ».

À cette occasion, la SJDF a le plaisir de faire appel à vos propositions de communication. Tout projet même hors thème sera naturellement le bienvenu. Les membres désireux de présenter une communication de 20 minutes dans la matinée du samedi 2 juin, sont donc priés d'adresser leurs propositions avant le 19 mars au Secrétariat de la SJDF par courriel (mailto : sjdf_bureau@sjdf.org). Le formulaire est à télécharger à l'adresse suivante : http://sjdf.org/doc/formulaire_2018p.docx.

Pour plus de renseignements, contactez notre secrétaire général IMANAKA Maiko (imanaka@int.osaka-sandai.ac.jp).

会長ならびに理事選挙のお知らせ
会長ならびに理事立候補の受付について
**Announce de l'élection du Président et des membres du
Conseil d'administration**

2018年3月より、会則にもとづき、会長ならびに理事の選挙を行ないます。

つきましては、会長ならびに理事の立候補の受けつけを行いますので、立候補される会員の方は、郵便により下記の選挙管理委員長まで、お申し出ください。

なお、会長ならびに理事の立候補の有資格者は、以下の通りとなります：

2017年12月31日現在、日本フランス語教育学会会員の方

- ・会長と理事の双方に立候補することができます。
- ・会則の改定により、会長選挙は立候補制となっています。

会長立候補の際には、自薦他薦を問わず、会員5名の推薦人と、立候補理由あるいは推薦理由を記載した文書を、選挙管理委員会宛にご提出ください。

立候補理由あるいは推薦理由の書式は自由ですが、広報に記載しますので、A4一枚以内にお収めください。

理事に関しましては、三期連続で務められた方には、会則により被選挙権はありません

オンライン投票について

今回の選挙から、完全オンライン投票を実施いたします(2014年11月23日(日)の臨時総会で会長ならびに理事選挙のオンライン投票承認)。

投票用紙による投票は行いませんので、ご注意ください。つきましては、会員情報の新規提供がお済みでない方は、以下のフォームより至急ご入力ください。

会員情報入力フォーム : <https://inscription.sjdf.org/>

選挙日程について

選挙の日程は、以下の通りとなります。この期間に登録アドレスに連絡メールが届かない場合は、お手数ですが、選挙管理委員長までご連絡ください。

また、先に会員名簿をお送りしましたが(3月7日発送)、住所変更等のためにお手元に届いていない場合は、至急、SJDF事務局までご連絡ください。

会長および理事立候補の受付締め切り	3月20日(火) ※当日必着
オンライン投票実施日	4月6日(金)～8日(日)
開票と集計	4月9日(月)

(会長選挙は一回目の投票で過半数得票者がいない場合には、上位2名による決選投票を行ないます。)

SJDF 選挙管理委員長：根岸徹郎
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 3-9-25
日仏会館 503SJDF 事務局

La SJDF organise l'élection de son président et des membres du conseil d'administration (mandat 2018-2020) selon les statuts de la SJDF le Chapitre 4 articles 13 et 14.

Nous prions les membres de la SJDF qui souhaitent présenter comme leur candidature au poste du président ou de membres du conseil d'administration de déposer leur candidature auprès de la commission électorale.

Tous les membres de la SJDF inscrits sur la liste publiée à la fin de 2017 peuvent déposer leur candidature au poste de président.

Tous les membres de la SJDF inscrits sur la liste publiée à la fin de 2017, excepté les personnes ayant déjà rempli trois mandats consécutifs en tant que membre du conseil d'administration, peuvent présenter leur candidature au poste de membre du conseil d'administration.

Les candidats au poste de président sont sollicités de présenter, par courrier, sur une feuille libre (format A4) leur programme ou une lettre de recommandation (format A4), adressée à la commission électorale, avec le nom des cinq membres de la SJDF qui soutiennent leur candidature.

Calendrier électoral

annonce (envoi de l'annuaire)	le 7 mars
date limite des candidatures	le 20 mars
publication des candidatures	le 1 ^{er} avril
scrutin	les 6, 7 et 8 avril
dépouillement	le 9 avril
publication des résultats	début mai
approbation par l'Assemblée générale	le 1 ^{er} juin

Les élections seront organisées par voie de scrutin en ligne.

Dans ce but, nous prions les membres qui n'ont pas encore actualisé leurs informations personnelles de bien vouloir le faire à partir de la page web suivante : <https://inscription.sjdf.org/>

Commission électorale de la SJDF (Tetsuro Negishi)
150-0013 Maison franco-japonaise
ch. 503 3-9-25, Ebisu, Shibuya, Tokyo

SJDF 奨励賞のお知らせ
Informations sur le Prix de la SJDF

2017年度 SJDF 奨励賞の結果は次号に掲載します。
Les lauréats du Prix de la SJDF 2017 seront dans le prochain bulletin (No.79).

学会運営についてのお知らせ
Informations sur le fonctionnement de la Société

■ **学会運営 Organisation de la société**

現会員数：2017年12月31日現在、本学会は681名の会員を有する（個人会員：656、団体会員：6、賛助会員：19）。
なお、2016年の本学会の総会員数は678名であった。

Au 31 décembre 2017, notre société comptait 681 membres (656 adhérents individuels, 6 personnes morales et 19 membres bienfaiteurs), contre 678 en 2016.

■ **学会からのお願い Informations pratiques**

○ **会費納入のお願い Appel à cotisation**

会員名簿と同時発送となったため、本年度の学会誌及び会費払込票のお届けが遅れましたこと、お詫び申し上げます。
会費未納の方には、同封の振込票にて下記の郵便振替口座に納入をお願いします。

00120-9-153060 日本フランス語教育学会

Nous vous prions de bien vouloir excuser l'envoi tardif de la revue et du mandat postal pour l'année courante, dû à l'envoi conjoint de l'annuaire des membres.

Nous prions les personnes qui ne se sont pas encore acquittées de leur cotisation annuelle de bien vouloir le faire par mandat postal.

Numéro de compte : 00120-9-153060
à l'ordre de *Nihon Furansugo Kyoiku Gakkai*

○ **会員情報の変更連絡・新規提供のお願い Appel à actualisation des informations personnelles**

会員情報の変更がある方、新規提供がお済みでない方は、以下のフォームよりご入力ください。

Nous prions les personnes qui n'ont pas encore actualisé leurs informations personnelles de bien vouloir le faire à partir de la page web suivante :

会員情報入力フォーム Adresse : <https://inscription.sjdf.org/>

Nous vous en remercions par avance.

○ **委員会・大会運営参加のお願い Appel à participation à l'organisation des Congrès et aux activités des comités**

6つの委員会（学会誌編集委員会、教員養成委員会、初中等教育委員会、フランコフォニー委員会、広報委員会、大会企画実行委員会）では、委員会活動に参加して下さる方を募集しております。また、春季大会・秋季大会運営にご協力いただける方も歓迎しておりますので、会員の皆様のご参加お待ちしております。

なお会員はどなたでも理事会議事録を閲覧することができます。御希望の方は事務局までお申し出下さい。

Les six comités (comité de rédaction de la revue de la Société, de la formation initiale et continue, de l'enseignement primaire et secondaire, de la francophonie, des relations publiques et de l'information, de conception et d'organisation des congrès) invitent tous les membres désirant s'impliquer dans les activités de l'un d'entre eux à poser leur candidature auprès du secrétaire général. Toute participation à la préparation des Congrès de printemps et d'automne est également la bienvenue.

Tout membre désirant consulter les comptes rendus du conseil 4 d'administration doit en faire la demande au secrétariat.

○ **各種のご連絡・お問い合わせは下記の事務局まで**

Toute correspondance doit être adressée au :

Secrétariat de la SJDF, c/o Maison Franco-Japonaise, 3-9-25
Ebisu, Shibuya-ku, Tokyo 150-0013, JAPON.
(Fax : 03-3444-3228. Site de la SJDF : <http://sjdf.org/>)

研究会等のお知らせ
Informations sur les différentes activités pédagogiques

■ **関西フランス語教育研究会 Rencontres Pédagogiques du Kansai**

第32回関西フランス語教育研究会は2018年3月26日（月）、27日（火）の2日間にわたり、大阪・梅田の上田安子服飾専門学校にて開催されます。共通テーマは「Les objectifs de l'enseignement du français. フランス語教育の目的とは」「Les leçons spéciales. L'ouverture, la clôture et la réactivation de la classe. 特別な授業 — 教室を開く、閉じる、再活性化する —」の2つです。詳細については、下記ホームページ、facebook ページ、月例会ブログをご参照ください。

Les 32^{èmes} Rencontres Pédagogiques du Kansai auront lieu les lundi 26 et mardi 27 mars 2018, à l'École de mode Ueda Yasuko (Umeda, Osaka). Les grands thèmes pour ces Rencontres 2018 sont : « Les objectifs de l'enseignement du français » et « Les leçons spéciales. L'ouverture, la clôture et la réactivation de la classe ». Pour en savoir plus, consultez notre site (<http://www.rpkansai.com>), notre page facebook (<https://www.facebook.com/MeetingsKansai>) et le blog des RPK mensuelles (<http://rpmensuels.blog.fc2.com>).

■ ペダゴジーを考える会 (Péka) のご案内

Pédagogie を考える会 (Péka) は 1990 年に発足した、言語教育に関わる多くの人たちと体験や意見を交換する「自己啓発の場」です。

年 6 回、第 3 土曜日の午後に例会を開催しています。例会ではフランス語教育をはじめとして言語教育一般、教育現場で遭遇する具体的な問題を扱っています。年間テーマに関係するトピックが例会ごとに設定され、教育実践報告や参加者全員による議論を通して、理解を深めています。参加に個人の資格や経験は問いません。運営はカンパによって行われていますので会費はありません。また、Péka では論集 *Études didactiques du FLE au Japon (EDFJ)* を毎年 5 月に刊行していますが、HP (<http://peka-web.sakura.ne.jp>) にも公開しています。さらに、前回例会の報告と次回例会の案内をお知らせするニューズレターを例会ごとに発行していますので、ぜひ一度 HP をご覧ください。

2018 年度の年間テーマは「ひろがる授業」です。例会開催予定日は 2018 年 4 月 21 日、6 月 16 日、9 月 15 日、10 月 20 日、12 月 15 日、2019 年 2 月 16 日 (もしくは 23 日) です。皆様のご参加をお待ちしております。

各種委員会からのお知らせ

Informations de la part des comités de la SJDF

■ 学会誌編集委員会からの報告とお知らせ Comité de rédaction de la RJDF

Appel à contributions pour le numéro 14 de la RJDF

学会誌編集委員会では、現在 2018 年 11 月の刊行をめざして第 13 号の編集を始めました。

また第 14 号 (2019 年 11 月刊行予定) の原稿 (論文、研究ノート、実践報告) の締め切りは 2018 年 11 月 30 日です。会員の皆様からの投稿をお待ちしています。詳細については以下の学会サイトをご覧ください。

Le comité de rédaction a commencé la rédaction du numéro 13 de la Revue japonaise de didactique du français, dont la publication est prévue en novembre 2018.

Par ailleurs, ceux qui souhaitent apporter leur contribution (articles, notes de recherche et comptes rendus d'expériences pédagogiques) pour le numéro 14 (publication prévue en novembre 2019) sont priés de nous faire parvenir le texte complet avant le 30 novembre 2018.

Nous comptons beaucoup sur votre collaboration. Pour plus d'informations, merci de consulter notre site : http://sjdf.org/publication/institutions_details

■ 教員養成委員会からの報告とお知らせ Comité de la formation initiale et continue

日本フランス語教育学会、日本フランス語フランス文学会、在日フランス大使館が毎年 3 月に共催する、2018 年フランス語教育国内スタージュ、Stage de mars が、アンスティチュ・

フランセ東京 (飯田橋) にて実施されます。2018 年の日程は 3 月 22 日 (木) から 25 日 (日) の 4 日間となっております。今年も Pierre-Yves Roux 氏 (CIEP) を招聘し、FLE の基礎を学ぶためのアトリエを担当いただきます。研修プログラムは 3 月中旬に学会 HP に掲載する予定ですので是非ご覧ください。

■ 初中等教育委員会からの報告とお知らせ Comité de l'enseignement primaire et secondaire

東日本高校生フランス語スケッチ・コンクールが IF-東京との共催で 2017 年 11 月 11 日 (土) に開催 (25 組 50 名が参加)。西日本のスケッチコンクールは 11 月 18 日 (土) に IF-京都との共催において行われた (15 組 30 名が参加)。また、2018 年 2 月 3 日 (土) には、西日本高校生フランス語暗唱コンクールが大阪・アサンプション国際高等学校と IF-大阪との三者共催で行われた (20 名参加)。なお、東日本の暗唱コンクールは慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスと IF-横浜との共催で 2018 年 3 月 11 日 (日) に行われた (36 名参加)。

毎年、最優秀賞として大使館賞、続いて Institut 賞、SJDF 賞、審査員特別賞、奨励賞などの多くの賞が用意され、出場者全員に参加証明書と参加賞が贈られる。APEF、DELTA 試験管理センター、全日本空輸、出版社各社から様々な賞品をご協賛いただき、心より感謝申し上げます。

日仏高校ネットワーク COLIBRI 短期交換留学 (代表 : 中野茂) では、2017 年 10 月 15 日 (日) ~ 11 月 4 日 (土) にフランス人高校生 44 名を受け入れた。日本側の生徒 44 名 (特別パートナーシップ参加者 4 名を含む) は 2018 年 3 月 10 日 (土) ~ 4 月 1 日 (日) に 3 週間フランスへ派遣される。また 2018 年 3 月 10 日 (土) ~ 4 月 1 日 (日) にニューカレドニアにも 19 名の生徒が派遣される予定。2018 年 1 月 6 日 (土) には、フランス側コリブリ加盟校の彫谷ひろみ先生を迎え、2017 年度総会を開催。2018 年 4 月 6 日に開催予定のフランス側の総会に、日本からも 1 名の教員が参加予定。

■ フランコフォニー委員会からの報告とお知らせ Comité de la francophonie

Le samedi 9 décembre a eu lieu la 9^e Journée de découverte de la francophonie, sur le campus de Mejiro de l'Université Gakushuin.

Cette journée, organisée conjointement par le Conseil de promotion de la francophonie au Japon et la Société japonaise de didactique du français, a lieu tous les ans le second samedi de décembre dans une université de la région de Tokyo. Elle a pour objectif de faire connaître la francophonie dans sa diversité à un jeune public japonais.

Après le mot d'ouverture prononcé par Maxence Robin, attaché linguistique de l'ambassade de France, M. Aggée Célestin Lomo-Myazhiom, maître de conférence à l'Université de Strasbourg, a prononcé une conférence sur « Négritude, créolisation et métissage dans l'espace francophone – autour de Césaire, Glissant et Senghor ».

La journée a ensuite continué avec les maintenant traditionnels quiz et reportages sur la francophonie au Japon. Cette année, des

étudiants des universités de Tsukuba, de Tokyo, Aoyama Gakuin, Gakushuin, Meijigakuin, Ochanomizu, Sophia et Keio, ainsi que des lycéennes du Lycée de l'Assomption Kokusai ont fait leur présentation devant un public d'environ 80 personnes.

La journée s'est terminée par la remise des prix, offerts cette année par l'APEF, l'Institut français du Japon, TV5MONDE, Franc-parler.jp, les éditeurs japonais et l'ambassade de Belgique.

第9回「フランコフォニーを発見しよう！」が12月9日、都内の学習院大学目白キャンパスで開催されました。

本イベントは毎年12月第2土曜日、日本フランコフォニー推進評議会と日本フランス語教育学会の共催により、首都圏の大学で開催されています。日本の若者を対象に、多様な姿のフランコフォニーを広く紹介することが目的です。

フランス大使館のマクサンス・ロバン・フランス語担当官による開会のあいさつに続いて、ストラスブール大学のアジェ=セレストン・ロモ=ミヤジウム准教授が、「フランス語圏におけるネグリチュード、クレオール化、混交:セゼール、グリッサン、サンゴールをめぐって」と題する講演を行いました。

さらに今や恒例となったフランコフォニーに関するクイズや、日本におけるフランコフォニーに関するルポルタージュの発表が行われました。今年は筑波大学、東京大学、青山学院大学、学習院大学、明治学院大学、お茶の水女子大学、上智大学、慶應義塾大学の学生と、アサンプション国際中学校高等学校の生徒が参加し、会場に集まった約80人の前でそれぞれ発表を行いました。

イベントの最後に表彰式が行われ、フランス語教育振興協会(APEF)、アンスティチュ・フランセ日本、フランスの国際放送「TV5MONDE」、フランス語圏情報ウェブマガジン「Franc-parler.jp」、日本の出版社、在日ベルギー大使館から、優秀な発表者に対して表彰状が授与されました。